

ちいき人権 WORLD

発行
2024年度 秋号(No.116)

発行：世界人権宣言八尾市実行委員会
委員長 土田 紀康
連絡先 TEL 072-924-9853
FAX 072-924-0134
編集：「ちいき・人権・World」編集委員会

「みんなでつくる やおしのけいかく」



ひゅーペンも来たよ♪



次期子ども計画策定にむけ、こどもの声を聴く八尾市の取り組みに協力しました。子ども・若者の声を集めるTシャツの形のオリジナルメッセージカードを作りました。



7月28日、リノアスにてNPO法人 KARALIN がイベント「かわたろうとまなぶ こどものけんり」を行いました。立ち寄ってくれた子どもたちと、かわたろうのオリジナル缶バッジやメッセージカードを作り、楽しい時間を過ごしました。

も く じ

- | | |
|--|-----------------------------------|
| 2 P..... 人権基礎講座～こどものけんり～
「境界線」をこどもの権利から考える | 10 P..... 2024年度じんけん楽習塾報告 |
| 6 P..... 「令和6年度男女共同参画白書」が
決定・公表されました。 | 11 P..... 白根さんと考えよう！世界の人権50 |
| 8 P..... 令和6年度戦争体験講話 東京大空襲
あのととき、あの場所で、何がおこったのか | 12 P..... うーさんのおすすめ本
/ じゃりちえ日記 |
| 9 P..... 「青い鳥」上映会
/ 世界人権宣言パネル展 | 13 P..... 新共有する時間は…part60 |
| | 14 P..... 気ままにおしゃべりシネマ58 |
| | 15 P..... 勝手にきやらふる 80 |
| | 16 P..... ひゅーまんフェスタ 2024 |

人権基礎講座～こどものけんり～ 「境界線」をこどもの権利から考える

「こども基本法」が制定され、いよいよ「こども大綱」が具体化する今年は、日本が「子どもの権利条約」に批准して30年の節目の年でもあります。八尾市でも新しいこども・若者の計画作りの準備がすすんでいます。ひとりひとりの“こども”がしあわせに生きていくためには、“おとな”は何ができるでしょうか？

八尾市人権協会では、八尾市より委託され、人権基礎講座～こどものけんり～を4回シリーズで開催しました。第1回、8月2日プリズムホール4階会議室1にて行われた、非営利団体 KAKECOMI 代表でソーシャルワーカーの鴻巣麻里香さん（オンライン）のお話をご紹介します。（事務局責任編集）



支援と繋がれるコミュニティづくり 「KAKECOMI」

安全な駆け込み寺でありながら、地域・コミュニティとしっかり繋がっている、というような願いを込めて名前をつけました。3つの事業があります。まかないこども食堂「たべまな」は、子どもと大人の、学校でも家でもない第3の居場所。そもそもは食堂というよりは出会いや繋がりが目的ではあったんですが、コロナ禍以降は物価高騰もあり、食べることすらままならないご家庭が増えてきて、食事支援だけではなく、寄付していただいた様々な食料品をパッケージにしてお届けしたり、高校生に直接食料品や日用品の寄付支援の活動も行っています。

シェアハウスということで、DV防止法では保護されないような方々、例えば成人した後、配偶者以外の親族から暴力の被害を受けている人、なかなか保護されない低い心理的精神的虐待や経済的DVを受けてる人たちのためのシェアハウスいわゆる民間シェルターというものを運営しています。

そして、とりあえず困ったときに、駆け込んで相談できる一番最初の窓口として機能するソーシャルワーク相談室をやっております。私達が目指してるのは、「助けてが言えなくても、自然と繋がれるコミュニティ」というのを一つの理念として掲げています。

●助けての声を奪うもの

・制度のすき間

この「助けて！」と支援を求めるといいうことは、実は難しいものなんです。人は困ったときに、困りごとが整理できない、相談先につながれないなどの理由で、必ずしも誰かに助けてっていう発想ができなかったりします。日本の福祉制度というのは、基本的には申請主義なので、いろんな条件に当てはまらないと、なかなか支援が受けられない。そうすると、ようやくやっと「助けてください」って言ったのに、「何かあったらまた来てくださいね」というふうに帰されてしまったりします。

人に「助けて」っていう力は、幼い頃から誰かに助けられてきた、誰かが自分を助けてくれた経験からくるんです。誰からも助けてもらえない、話そうとしたけれども無視された、否定されたという経験を積んでいけば、「どうせ話しても無駄だ」と思ってしまう。そんなふうにして助けてって言えないまま、抱え込んだ困りごとがどんどん大きくなってしまふ。大きくなってしまった結果、にっちもさっちもいかない大変なことになってしまふって、ようやく支援者と巡り会ったら、「何で今まで相談しなかったの！」なんて怒られてしまふって、傷だけが増えてしまふということもあります。制度の隙間、言い換えれば、福祉制度の申請主義というものが、助けての声を奪うことがあります。

・逆境体験(環境)とトラウマ

逆境的環境、つまり「困っている、つらい」という状況と状態そのものが、助けての声を奪ってしまいます。「トラウマ」といえば、大きな災害、戦争や紛争、事件・犯罪の被害に遭うとか、あるいは虐待の被害に遭うとか、そういった非常にその命が脅かされるようなインパクトのある出来事を経験するとそれがトラウマとなる、というふうにイメージされると思うんですけども、実は日常の中に私達の心的外傷となるような出来事というのはたくさんあるんだということが認められるようになってきました。反復性のトラウマというふうに言われて、精神疾患のカテゴリーとしては複雑性 PTSD などというふうに言われるようになってきています。一つ一つの逆境というのは別に命を脅かすものではなかったとしても、「私に価値なんてない、どうせ誰も助けてくれっこない、私の見方なんて1人もいない」というような色眼鏡を、子どもの頃の日々の持続的な、じわじわとした逆境の中で身につけてしまいます。そうすると何が起きるかということ、まず人と安定した関係を築くのが難しくなったり、人に頼りにくくなります。何かあったときにその色眼鏡が「助けて」と人を頼ることを邪魔してしまいます。子どもの頃から助けてもらうことが当たり前の空間ってすごく大事だとおもいます。

●逆境とバウンダリー

バウンダリーとは？

「私は私」という境界です。言い換えれば「あなたはあなた」なので、自分と誰かを区別するもので、はっきりと見える線ではありません。それぞれが心の中に引く線です。違いそのものであるし、違っててもいいんだよという軸もあります。そしてこのバウンダリーという境界は一定ではなくて調節機能があるんですね。

バウンダリーというのは、他の人の気持ちを背負って苦しくなることを防いでくれます。誰か不機嫌な人を見たときに「あの不機嫌な人の

不機嫌の原因は私にあるんじゃないか？」など、いろんなものを抱え込むことを防いでくれます。私は「心の皮膚」という言い方をするんですけども、自分を守って、他から隔てるだけじゃなくて、他者と接して情報を受け入れ、感じて、自分と外が繋がる機能もあると思っています。

バウンダリーの侵害

バウンダリーが侵害されるとどうなるか？私達、結構バウンダリーを侵害され続けてるんですね。まず、意見を大切に聞かれない、親や先生に決めつけられる。そして親や周りの大人が不機嫌でコントロールする。パターン！と、ドアを閉めたり大きな音を立てたり、ため息をついたりとかで、「察しなさい、私は今、不機嫌なんだ。」というようにコントロール、つまり察することを要求する。あるいは大人が「あなたのためを思って言ってるのよ。」と、意見や、趣味や予定を押し付けたり、逆に否定される。年齢に見合わない役割、いわゆるヤングケアラーと呼ばれる子たちもそうです。秘密を持つことを禁じたりプライバシーがなかったりとか、集団行動の押しつけ、望まない同意のない体の接触だったり性的な搾取、暴力や脅しなどが子どもの頃にあると、その子のバウンダリーというものはどんどんどんどん脆弱になってしまいます。

バウンダリーが侵害されると、加害を受け入れやすくなってしまふ。つらい、嫌だと感じるのも「私は私」という軸が必要なんです。性被害が起こりやすくなる。嫌だと言えずに、「抵抗しなかったじゃないか」というふうに2次被害がおこってしまう。また、自分自身のバウンダリーがゆるゆるだと、逆に誰かのバウンダリーを侵害してしまいやすい。誰かに近づきすぎてしまふ、コントロールしようとしてしまふ傾向にもなっていきます。

支援はバウンダリーの修復

生きづらさを抱えている人々を支援するということは、その人のバウンダリーというものを修復していくものなんです。そのためにはまず

支援者が「バウンダリーって何だろう？」と理解すること。これは不可欠だと思います。支援のプロセスとしてバウンダリーの修復を意識すること。バウンダリーの修復というのは、権利と同意に根ざした支援です。「あなたはどう思いますか？」常にこれが大事です。「こうなったらいいよ、こうするのが最善だよ」じゃなくて、「あなたはどうしたい？あなたの目から今の現実どう見える？」常に「あなたは？」と、その人がという主語を持ち続けること。そして意思決定や意見、言葉を決して奪わない。本人抜きで話をしないということです。これは当事者に意見表明する力がないと見られてきた属性の方々であればあるほど大事です。特に子どもには、とても大事だと思っています。

支援の場ではバウンダリーの侵害が起きやすいんです。バウンダリーが侵害された人を支援する現場は、最もバウンダリー侵害が起きやすい現場でもあるので、**支援者自身もバウンダリーが守られなきゃいけない**。相手の苦しみを引き受けすぎると、どんどん視野が狭くなってしまいます。**共感と共鳴は違う**んですね。自分自身まで一緒に苦しまなくても、いい支援はできるんです。私達が苦しむ必要は絶対ないんです。むしろ私達がちゃんと寝て、ちゃんと食べて、ちゃんと幸せな生活を送ること。苦しさをしっかり想像できる努力というのが生まれるので、私達自身の生活というバウンダリーを守るってことはとても大事だということですね。

●おとなにできること

良いことをする前に、害になることをしない 権利を守る

皆さんは、子どもや困ってる人に、優しくありたいな、良いことをしてあげたいなと思ってらっしゃるかと思うんですが、右手で良いことをするのに、左手で良くないことをしていたら、相手は苦しいだけなんです。良いことをする前に、害になることをしないっていうプロセスがすごく大事なんです。これは今日のテーマでも

あります。

子どもの権利を守るということです。「権利を守る」というのは実は、能動的に「こうしましょう、ああしましょう」というよりは、むしろ「こうしない、これをやめる。」というまずやめていく方が先に来るんですね。

- 容姿や体形にコメントしない
- 女の子だから・男のだからと性差で役割を決めない
- 不必要に、無断で体に触れない
- 趣味や予定を押し付けない
- 秘密を持つことを禁じない
- 苦労自慢や我慢自慢をしない
- 取引(〇〇したいなら△△しなさい等)しない
- 約束を破らない
- イライラを態度に出さない
- 話をきくまえに決めつけない

子どもの権利を守るということで、何かすごく大変なことをしなきゃいけないんじゃないか、もうワンステップ上に登らなきゃいけないんじゃないかっていう気持ちになりますが、今やっているいろんな害になることを、とりあえず止めてみるのが、何より子どもの権利を守るということです。

おとなが「弱さ」を受け入れる

インタビューに応じてくれた中学生と高校生がこんなふうに言っていました。「やり直しができないっていうプレッシャーが悩みを深くしてるんだよね。やり直しが簡単にできる世の中になったらいいし、そのためには、大人が弱さを受け入れる必要があると思います。大人にとってもそういう世の中の方がずっといいんじゃないかなと思う。そして苦しいことを自分のせいだって抱え込まないで、世の中のせいにした上で変えていく。その方がずっと責任ある態度だと私は思います。」

弱さを受け入れることを、なぜ大人ができないのか、言い換えれば、どうして大人はしんどさを忘れちゃうのかなど。理不尽な校則苦しかったし、夏休みなのに毎日クラブ苦しかったし、体罰みたいなことしてくる先生が苦しかったし、

いじめが苦しかったし、決めつけてくる親が苦しかったし、いろんな苦しかったことがあったんだけど、なぜか私達自分が味わった苦しさに「意味があったんだ、あれがあってよかったんだ。」って味付けをしてしまって、子どもに繰り返してしまうということが起こりうるんですね。私達は、ただ苦しい経験を無意味な苦しきとして自分の中に止めておくことができないんです。だからこそ、ちょっと広義の正常性バイアスみたいなものだと思うんですけども、苦しみにいろんな意味付け価値づけをしてしまう。「意味づけをしない」ができなかったとしても、いくら自分が体罰のような厳しい指導を受けてよかったとか、苦しんでよかったなっていう思いを捨てきれなかったとしても、それは私のケース1、Nイコール1でしかないよと。目の前の子どもは別の存在なんだよっていう、ちゃんとバウンダリーを引く、ということはせめてしてほしいなと思います。

安全を感じられる枠組み作り

子ども自身が安全を感じられるための枠組みを作っていくということも大人にできることの一つです。

私達の実践としては、直接子どもに物と住まいが届くということ。いろんな支援が世帯単位で行われていると、子どもに物が届かないことがあるんですね。子どもの「困った」っていう声がちゃんと「助ける・助けられる」っていうのも大事。

その上で、子どもの権利を守るということで大事にしているのが、**関係性と機会の固定化を防ぐ仕組み**だったりします。この関係性と機会の固定化って何かっていうと、「してあげる・してもらおう」という関係性や、「関心を持つ・持たれる」という関係性が固定化してしまうということです。

大人と子どもがそれぞれできることで場を支える同士になるために、大人の人は大人にしかできないこと、何かというとお金の支援です。稼いでる大人にしかできない、お金がなくても

1円だけでも構わない。ちゃんとチャリンと入れてくれることが大人にできるかと。そして子どもにできることは子どもがこの場を維持するためにできるいろんなこと、誰かの話を聞くでも、勉強を教える、なんでも構わない。そういった実際の運営は全部子どもに任せるということで、子どもと大人の間に「してあげる・してもらおう」という関係が固定化されるのを防いでいます。

●しんどさは世の中(社会)の問題

いったん全部社会のせいにしてみる

子どもたちが苦しいのは、そして私達自身が苦しいのは、「なぜ苦しいのか？」という視点からだけ考えていたのでは、その原因にたどり着けなかったりします。私達大体何かから苦しめられています。生活困窮、虐待、犯罪や暴力の被害、病気、障がい者差別、抑圧それらによる社会的孤立といった様々な困難、いわゆる生きづらさなどは大体世の中の問題だったりします。

力関係の中で女性や子どもたちに暴力が起き、子どもの権利、子どもの選択を軽視して、そういった世の中の側の問題で子どもたちが苦しんでいる、苦しんでいることにすら気づかない子どもたちがいたりする。こども家庭庁ができて「こどもまんなか社会」と言われていますが、その子どもの声というのが、なかなか中央に伝わらなかったりする。子どもの問題っていうのは大体が、世の中の側に原因があるよねっていう目線を子どもたちと一緒に考えてみる。世の中の側の問題というものを一旦子どもと一緒に眺めていくことで、子ども自身が、これは自分の問題だ、あるいは自分の権利が奪われているということに気づかないでいる問題に対しても、「権利」というものを、一緒に開いていく。親の生き方があったとしても「あなたはあなたでいいんだよ。」と。

バウンダリーっていうのは権利です。その権利というものを子どもたちと一緒に考えていく機会というものがどんどん増えていくといいなというふうに思います。

「令和6年度男女共同参画白書」が 決定・公表されました。

男女共同参画白書は、男女共同参画基本法に基づき作成している年次報告書です。

令和6年版男女共同参画白書では、「仕事と健康の両立」を特集テーマに、一人一人が希望に応じて、自らの個性と能力を最大限に発揮し、持続的に活躍するためには「健康」が基盤になるとして、これからの働き方や両立支援の在り方等について考察しています。

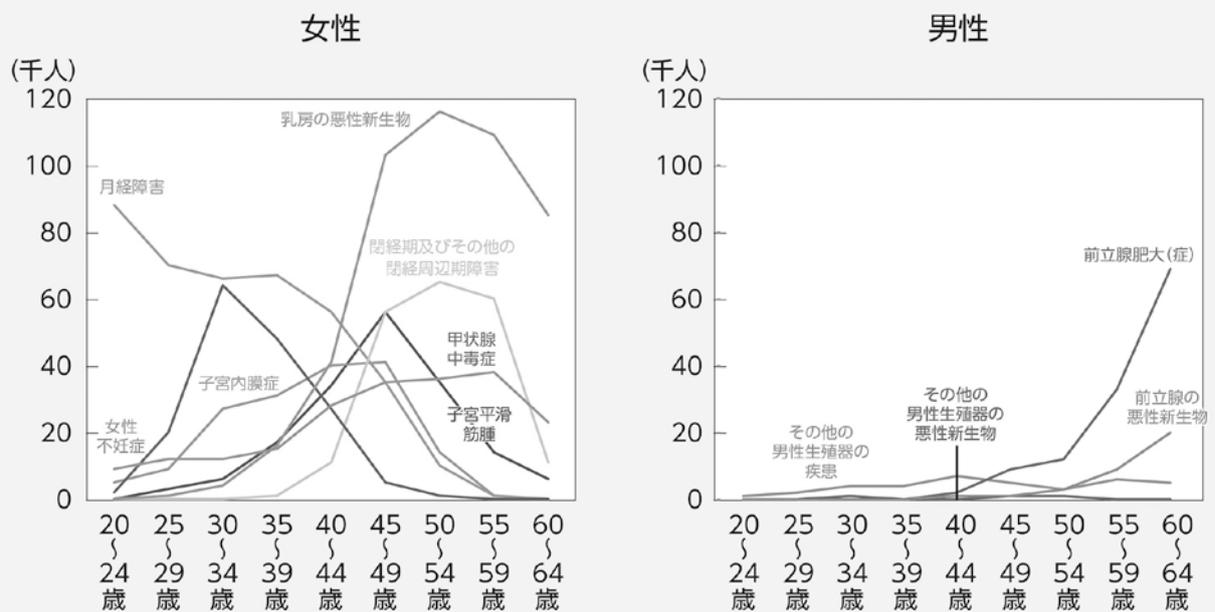
少子高齢化が加速するなか、就業者数の男女差は小さくなり、男女ともに40代後半がピークとなっています。男性特有の病気は50歳代以降で多くなる傾向にあります。女性特有の病気

は働く世代に多くなっています。

女性の就業継続、キャリアアップの阻害要因として、長時間労働や転勤を前提とする雇用慣行がありますが、職場における健康支援についても、女性に対して配慮したものになっていない可能性があります。

男女ともに、自分自身及び互いの身体の特徴・健康課題に関する正しい理解が求められます。また、希望するすべての人が生き生きと働き、キャリアアップをめざすためには、それぞれの特性に応じた健康支援が必要となります。

特-14図 女性特有、男性特有の病気の総患者数（年齢階級別・令和2（2020）年）



- (備考) 1. 厚生労働省「令和2年患者調査」より作成。
 2. 総患者数は、ある傷病における外来患者が一定期間ごとに再来するという仮定に加え、医療施設の稼働日を考慮した調整を行うことにより、調査日現在において、継続的に医療を受けている者（調査日には医療施設で受療していない者を含む。）の数を次の算式により推計したものである。

$$\text{総患者数} = \text{推計入院患者数} + \text{推計初診外来患者数} + (\text{推計再来外来患者数} \times \text{平均診療間隔} \times \text{調整係数} (6/7))$$
 推計に用いる平均診療間隔は99日以上を除外して算出。
 3. 「乳房の悪性新生物」及び「甲状腺中毒症」は男性も罹患するが、女性に多い病気である。

内閣府ホームページより

団塊の世代が後期高齢者に差しあたりつつある現在、仕事と育児の両立支援に加え、仕事と介護の両立支援も重要な課題となっており、両立支援は新たなステージへ入っています。

介護を個人のみで抱えるべき課題とするのではなく、社会全体で支えていくことが必要です。

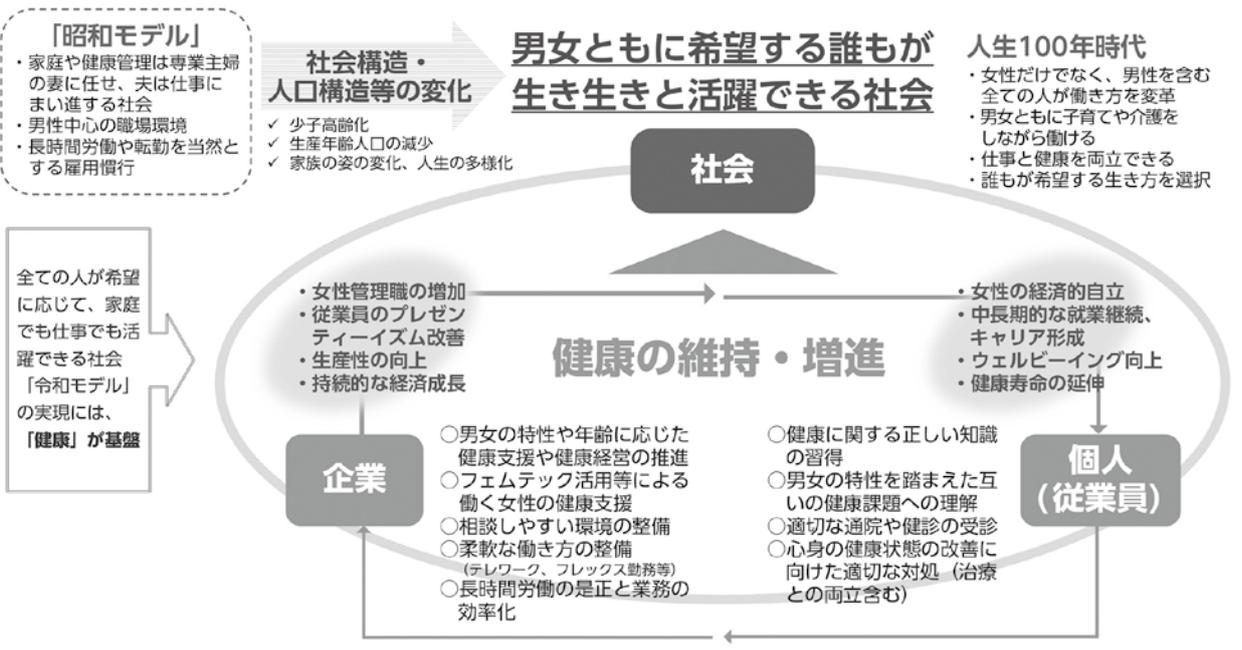
そして、女性が健康課題を抱えながらも働きやすい社会は、男性も含めたすべての人々にとっても働きやすい社会になることが期待されます。男性を含むすべての人の働き方を柔軟な働き方など、仕事と家事・育児・介護等の両立を実現できるような働き方に変えていくことが重要です。

女性も男性も、仕事か家庭かなどの二者択一を迫られることなく、持続可能な形で自らの理想とする生き方と仕事を両立することが可能となれば、キャリア継続、キャリアアップのモチベーションとなるでしょう。



特-69図 両立支援は新たなステージへ

- ・人生100年時代において、男女ともに自らが健康であり、自らの能力を発揮できる環境が重要。
- ・少子高齢化の進展の中で、労働力の確保・労働生産性の向上のためにも健康支援は必要不可欠。
- ・これらが、持続可能な形で自らの理想とする生き方と仕事の両立を可能にする要素になり得る。



内閣府ホームページより

令和6年度戦争体験講話

東京大空襲 あの時、あの場所で、何がおこったのか

八尾市では、毎年、長崎市より被爆体験者や被爆体験伝承者を招き、市内小中学校にて講話を行う「長崎被爆体験講話」を実施し、平和啓発に努めていますが、今回は、こどもたちだけでなく、より幅広い世代の方への平和啓発につながればという思いを込めて、「戦争体験講話」を開催いたしました。

戦後80周年を目前とした今年度は、「東京大空襲」をテーマとし、東京大空襲体験者である、二瓶(にへい) 治代(はるよ)さんに講話をしていただきました。体験者ご本人からお話を聞くことが難しくなる中、今回の講話は貴重な機会となりました。

講話後は、河内ウインドオーケストラとハミールによるミニコンサートを実施し、平和への祈りを込めて、演奏していただきました。



内 容：令和6年度戦争体験講話 東京大空襲
あの時、あの場所で、何がおこったのか
日 時：2024年8月12日(月・祝)
午前10時～午後0時
場 所：八尾市文化会館(プリズムホール)5階
レセプションホール
講話者：東京大空襲体験者 二瓶 治代さん
演奏者：河内ウインドオーケストラ ハミール

(参加者アンケートより)

- ・体験者ご本人の話を直接聞いてよかった。機会があれば、また聞いてみたい。
- ・戦争は二度としてはいけないものと実感した。
- ・自分の大切な人が亡くなるなど、戦争には、辛いことがたくさんあったことを知ることが出来た。命の大切さを知ったので、今を大切に生きようと思った。
- ・二瓶さんが仰った、相手を思いやる気持ちが大切という言葉が心に沁みた。戦争だけでなく、天災時にも、相手を思いやる気持ちを大事にしたいと思った。



「青い鳥」上映会

八尾市人権啓発推進協議会では、人権尊重の精神に基づき、例年実施している「みんなのしあわせを築く八尾市民集会」や、各地区福祉委員会で実施していただいている地区人権研修など、全市民を対象にした人権啓発事業を実施しております。

今回は、映画を通じて参加者の方にいじめに



大人は、みんな、十四歳だった。



人権啓発映画上映会
青い鳥
2024年8月20日(火)開演
14:00開始 (13:30開演)
八尾市文化会館 プリズムホール
地下2階小ホール
300名 要予約
八尾市主催・各町・各学区の協賛
映画「青い鳥」の上映会
申込み締切 7/16(水)～7/30(水)
お問い合わせ 八尾市人権啓発推進協議会
TEL:072-624-3620 FAX:072-624-0179

ついて考えていただく機会にするため、人権啓発映画上映会として「青い鳥」上映会を実施しました。

内容：映画「青い鳥」上映

日時：2024（令和6）年8月20日（火）

14時開始

場所：八尾市文化会館（プリズムホール）

地下2階 小ホール

（参加者アンケートより）

- ・この映画自体知らなかったのが本当に良かったです。かくれた苦しみ等居場所がなく困っている人たちを知ってもらうための活動ができればと思いました。
- ・難しいテーマだけど考えさせられる。よく練られた映画でした。感心しました。
- ・投げかけられ気づかされる内容でした。答えや具体的な行動は、じっくり考えたいと思います。若い年代の方にもぜひ観てほしいです。
- ・人の気持ちは色々あります。自分の思いを必ず誰かに話してほしいと思います。
- ・本音を聞く力を養いたかったです。忘れないことが償いにつながる。反省から責任への教育に感動しました。

世界人権宣言パネル展

八尾市、八尾市教育委員会、世界人権宣言八尾市実行委員会の三者共催による「世界人権宣言パネル展」が、9月7日（土）今年もアリオY A O 2階オレンジコートにて開催されました。パネル掲示には、世界のトップアーティストが世界人権宣言各条文を描き、絵本ライターの中川ひろたかさんが編集した『ひとはみな、自由』を展示しました。トップアーティストがそれぞれの感性で表現した各条文の絵は、とても引きつける掲示となっており、熱心に鑑賞されている人の姿もみられました。

差別落書き防止啓発パネルは、八尾市内で実際に発生した差別落書きを掲示することにより、落書きの存在を知り、関心を持ってもらい誰もが落書き行為者にならないことをめざして展示しています。参加者のアンケートでは、7割近くの人が落書きの存在を知らなかったと回答し



ており、今後も引き続きパネル展開催の必要性を感じています。

来年もアリオY A Oにて開催予定です。ご参加よろしくお願ひします。（事務局）

（参加者アンケートより）

- ・こういうこと、イベントであらためて日常生活の中の差別のいろいろを考えることができると思うので続けるべきだと感じます。
- ・日常生活において無意識のうちに差別をしまっていることが多々あるので、相手の気持ちを忘れずに差別がないよう努めたい。

2024年度

じんけん楽習塾

じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ

報告

今年度のじんけん楽習塾が無事終わりました。じんけん楽習塾は1998年から続いている人権学習講座です。ここでは、参加者で企画を考え、講師選びや連絡を行います。その企画会議で情報交換しながら交流するのも学びになっています。ぜひみなさんも企画会議にご参加ください。

	日時	テーマ	ファシリテーター / 講師
1	5/15	子どもの安全を子ども自身が守るために ～SAFEプログラム～	森実さん (エクパットジャパン関西)
2	5/29	難民申請者の特定活動ビザ上の体験	玉利ドーラさん WEB (異文化ナビゲーター・フリーランス)
3	6/12	やさしい日本語は 多文化共生社会の マナー	吉田美穂子さん (『入門・やさしい日本語』認定講師)
4	6/26	支援の現場から 無戸籍者がおかれる課題を考える	市川真由美さん (NPO 法人無戸籍の人を支援する会代表)
5	7/10	変容する現代社会の部落差別 ーレイシズム研究の知見を踏まえて	阿久澤麻理子さん (大阪公立大学 人権問題研究センター/ 都市経営研究科教員)
6	7/24	私にとってのハンセン病問題	加藤めぐみさん (社会福祉法人 済生会支部大阪府 済生会ハンセン病回復者支援センター)

〈各回の感想〉

1回目…子どもから見えている景色をどこまで想像できているのか考えることができた。言葉などで意見を発することが困難な状態にある子どもをエンパワーし、レジリエンスを育むことができるよう現場で取り組んでいきたい。

2回目…「難民」の人々が日本に来られたときの厳しい状況、そしてどう未来を切り開いていけるのか、知ることができました。難民申請期間の初期をどう過ごすかの情報を早く伝えられるように施策が整えばと思いました。「難民」とひとくくりにするのではなく、1人1人の可能性を大切にできる社会を作りたいものです。

3回目…やさしい日本語は、日本語を分かりやすくしているだけだと思っていました。今日のお話で、様々な要素があり、話すコツ、書くコツなど、人を尊重して作られていることが分かりました。「相手に寄り添うコミュニケーション」はすべての人に大切なことなので、日常でも意識していきたいです。

4回目…無戸籍の人がいることは知っていても、その方々の苦労、手続きの大変さについては今日のお話をきくまで知りませんでした。戸籍制度そのものが本当に必要なのか、根本から考える必要があると思いました。

5回目…「みなされる差別」がわたしたち社会の中に恐怖として存在していることを強く感じました。「～と思われたらどうしよう」という不安は集団や社会の中につねにあるように思います。「差別はだめ」だけではない、解消の方法を考えていきたいと思いました。

6回目…回復者の方が安心して地域で暮らしていけない現状がありと言われていたことが心に残りました。正しい知識とみなさんの想いを子どもたちに伝えていくことが大切だと感じました。コロナの経験より考えること、差別を繰り返さないためにできることを、今一度、みんなが自分ごととして考えることが、未来に繋がるのではと思いました。

白根さんと考えよう! 世界の人権50

国際NGO「CCPR センター」「ISSYO」所属 白根大輔

クリケット禁止令と人種主義

9月初め、イギリスBBCの報道で、イタリア東部、スロベニアとの国境近くのアドリア海沿岸にあるモンファルコーネという市が、市内でクリケットをすることを禁止した、という記事がありました。

モンファルコーネは人口約3万人の小さな街ですが、ここには世界でも有数、ヨーロッパでは最大のフィンチャンティエリというクルーズ船造船会社があり、この造船会社工場の労働力として、90年代からバングラデシュから多くの労働者が移住してきました。現在ではモンファルコーネの移住労働者コミュニティの規模は市の総人口の約3分の1にあたりとされており、このユニークな人口構成を反映するかのよう、街にはバングラデシュ料理のレストランやハラール店も多く、イタリアのパスポートを取得している、できるバングラデシュ移住者も増えているようです。ちなみにクリケットはバングラデシュの国技です。

このような中、クリケット禁止令は2016年から在任する極右リーグ党の市長により出され、その理由はクリケットのボールが危ないということ、しかし新たな敷地を用意するスペースや資金がないため、とされています。この命令を犯した人には100ユーロの罰金が課され、市の警察が監視カメラや路上パトロールを通して監視規制しているようです。報道によれば、実際、この規制を知らずに地域の公園でクリケットをしていたバングラデシュの若者グループが、監視カメラで撮影されており、警察が介入、クリ

ケットの試合は中断、罰金を課されたケースがあるようです。確かにクリケットボールは野球ボールほどの大きさですが、硬いもので、競技ではそれを投げたり打ったりしますので、専用の競技場や広いところでないと、人や物に当たって怪我、破損となる可能性は大いにあります。

ただし、市長はクリケット禁止令に関するBBCの取材に対し、モンファルコーネでは、移住労働者により街の「歴史が消され」、文化が危機に晒されている、さらに「女性が男性から酷い扱いを受け、抑圧されている文化」、「イスラム原理主義化プロセスが進められている」ともしており、また、バングラデシュのムスリムコミュニティの生き方は、生粋のイタリア人の生き方とは「相容れない」と固く信じている、そしてバングラデシュからの移住労働者は、モンファルコーネやそのコミュニティに対して何も貢献していないため、国技であろうが市内でクリケットをさせることはできない、とも説明しています。ちなみにモンファルコーネでは、以前、この市長の主導で、市内にある2つのイスラムセンターでの集団礼拝も禁止する市議会命令も出されていましたが、これは今年夏、地方裁判所の判決で無効とされたようです。今回の禁止令も市長主導の措置であり、安全を確保するという建前の奥には、特に市内のバングラデシュ移住労働者コミュニティをターゲットにした人種主義・差別、排他的な要素が確実にあると言っているでしょう。

モンファルコーネ市長は2016年の初当選以来、再当選し、2期目の任期です。さらに彼女は昨日の欧州議会選挙でも当選し、「ヨーロッパのイスラム化」を防ぐため、欧州レベルで自身のキャンペーンを継続するとしています。ヨーロッパ各地で極右政党が支持者を増やし、議会に加わるだけでなく、政権をとっているところもあります。人種主義・差別、移住者に対する嫌悪は自治体、国、地域レベルで如実な問題として現れています。



2022年に紹介した本『心の境界線』は、一般向けの本でした。今回紹介する本は特に10代に向けて書かれています。題名は『わたしはわたし。あなたじゃない。』

中高生世代の子どもたちをとりまく友達、家族、学校など5つの場で起こる困りごとについて、バウンダリーから読み解いていきます。それぞれ一人のこどもの物語があって、その話のポイント整理、そこでのバウンダリーの侵害についてという流れになっています。そして、その後ろにおとなに向けての解説「この本を読んでいる大人のみなさんへ」があります。

私は子どもとの間のバウンダリーを「よかれと思って」無意識に侵害していたことが多々あ

ったことに気付かされました。それと、同意と権利がバウンダリーを守るために必要なことも改めて知ることができました。

副題が『10代の心を守る境界線「バウンダリー」の引き方』となっています。なので、中高生の人たちはもちろんですが、こどもに関わるおとなたちも、ぜひ一読して欲しいです。

そして、読んで、知識が更新されたら、少しずつバウンダリーという言葉を利用して、行動も互いのバウンダリーを守れるように更新していってくださいね。

バウンダリーという言葉が広く浸透して、行動も変わること、いろいろな人間関係のしんどさが少しでも軽減されることを願っています。



わたしはわたし。あなたじゃない。
—10代の心を守る境界線
「バウンダリー」の引き方
鴻巣麻里香 著
リトルモア



じゃいちえ日記

VOL78

課題・山積み【混乱を避けるために】

春と秋はどこへ行ったのと感じる事が多くなった気がしている。暑い日が続くと体が追いついていかない。

暑くなる時期が年々早い。体の不調や急に大雨予報の時予定を入れても、変更又はキャンセルする事もある。

支援してくれるヘルパーさんの気を使いながらしている。【別の事業所】も併用している為、時間変更の時、「自ら」時間の調整している。時間帯を伝えないといけないので、自宅にいる時間帯をつたえている。変更をした事を忘れてい

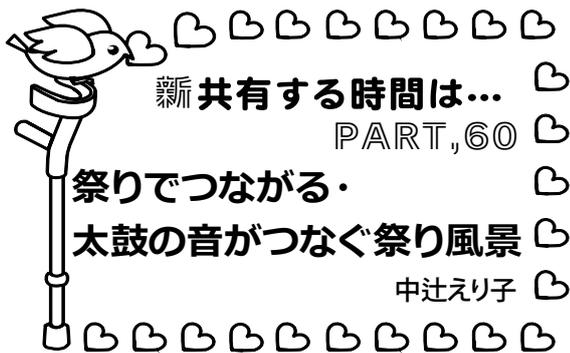
る事がある為、ショートメール（メッセージ）機能を利用し「対策」をして、時間帯を間違えない為の工夫をしている。

1回、新しいヘルパーさんで、朝・洗濯を回していないと知った時、不機嫌になるヘルパーさんもいた、

今はいないと思う。又、「献立」を伝えるのにも頭を悩ませている。

定番だった時間帯から変わると慣れるまでに時間がかかる。他の予定が入っていると、変更したりするのが難しい。ヘルパーさんが入れる時間帯にいない為、時には1時間とか短縮する。その分のしわ寄せが、私に来るのは確実。『人手不足』は深刻。

中途半端にできてしまう私にとっては、至難の業。これから先、両親に頼んでしてもらっている所もあるので、今後「できなくなった場合」ヘルパーさんをお願いしたいと思う今日この頃。



「八尾の祭まっぷ 2024 秋号」が出来上がりました。5年ぶりの夏号発行（7/1）のあと、秋祭り開催日程も確認して、今年の“八尾の夏・秋を彩るふとん太鼓やだんじりの祭り”情報発行（10/1）です。

夏祭り準備の日や祭り当日に「祭りまっぷ 2024 夏号」を各所に届けながら、祭りの雰囲気を楽しんで来ました。ふとん太鼓やだんじりの巡行表（順路や巡行時刻）だけでなく、多くの人に楽しんでもらおうと、夜店や模擬店開催を知らせる地域、“わがまちの祭り”を撮影したポスターの掲示も見つけました。“NO MATURI NO LIFE”の書き出しには、祭り人の心意気を感じられました。

ふとん太鼓が設えられた神社境内で、役員の方に祭りまっぷを渡すと「毎年楽しみで、今年はいつ出るのかと思っていた。自転車で回っている。」とうれしい言葉。他の神社で若いはっぴ姿の方からは「初めて見た。」も (!?)。青年団に入団したのは4年前だとか（まっぷ作成休止期間でした）。夜のふとん太鼓の巡行を熱心に見ていた外国人女性二人に手渡すと興味深そうに受け取ってくれました。

高安祭り（7/13・14）本宮（7/14）の朝、神立に向かいました。大阪平野を見下ろす玉祖神社に自転車を押して登って行くと、境内には大勢の人が集まっていました。祝詞とお祓い、獅子舞のあと、宮本である神立のふとん太鼓と玉祖神社の神輿が担ぎ上げられ、本殿を廻ります。神立の担ぎ手達はふとん太鼓を担ぎますが、神輿は高安11カ村のうち、神立・大竹・水越・千塚・大窪・郡川・黒谷・垣内の8地区（8カ村）のはっぴ姿の担ぎ手達が心をそろえての担ぎ上げです。邪気をはらう太鼓の音を響かせるふとん太鼓に先導されて神輿が宮出して行きました。楽音寺（熊野神社）のふと

ん太鼓が待つ中継地での担ぎ合いのあと、楽音寺のはっぴ姿の担ぎ手達に神輿が引き継がれて、巡行が続きます。山畑（佐麻多度神社）、服部川（服部川八幡宮）のふとん太鼓の巡行も見ることが出来ました。日中のそれぞれのまちの巡行のあと、夕方には東高野街道（旧国道170号線）松の馬場にある玉祖神社鳥居下に7地区（楽音寺・神立・大竹・水越・千塚・大窪・郡川）のふとん太鼓が集結して、太鼓が響く勇壮な担ぎ比べと神輿担ぎが繰り広げられました。

今年の夏は昨年以上に気温が上昇して、猛暑と言うより「酷暑」の感がありました。35℃を超える暑さがいつまでも続き、夏祭りはそれぞれの地域で対策をとりながら開催されていました。Tシャツを新調した地域も多く、神社の神紋を背にしたTシャツ姿でふとん太鼓を担ぐ地域もありました。秋祭りの開催とした地域もあります。まっぷを手渡して、地域や人のつながりを感じることもありました。地元の祭りのあと、他の地区のはっぴ姿でふとん太鼓やだんじりの担ぎに協力する人（「あっ、ここでも担いでいる！」と何人も気がつきます）、役員さんからは「祭りに担ぎに来てくれたから、今度はお返しに行く。」と、人数を募り、他の祭りでは交通整理の服装で協力している姿も見かけました。

八尾の田園では稲穂が実りの色を見せています。10月に入っても気温が高い日があるようで、台風など気候変動も大きい秋を迎えます。元旦から大きな自然災害に見舞われてきた地域の復興も願いながら、秋の“八尾の祭り”で、祭りが持つ繋ぐ力を体感したいと思っています。



おまにおしかべり シネマ vol.58



丘の上の本屋さん(2021年 イタリア)
監督・脚本/クラウディオ・ロッシ・マッシミ
主演/レモ・ジローネ
ディディー・ローレンツ・チュンブ

E: いつもいろんな本を紹介してくれるUさんから「この映画知ってる?」と連絡が入り、その直前にAさんからも紹介されて観たばかりだったから、なんか大事に思ってることが通じてるなど嬉しかったです。

U: 美しい街並みにゆったりとした時間が流れて、丘の上の本屋さんはまるでオアシスのようで、なんとも素敵な映画でしたよね。隣りのカフェから息抜きに来るニコラとのやりとりもほのぼのの。

E: 高齢のリベロを気にかけて店番も引き受けてくれる気さくで優しい青年です。自分の恋にリベロを利用しようとしてましたけど(笑)。

U: リベロの古書店には絶版した本や趣味嗜好の本を探しにくる人、古書で儲けようとする人、その人が持ち込んだ個人の日記もあったり、ときどき笑ってしまう個性的な人が多かったですね。アフリカ移民の少年エシエンも熱心にのぞきにきてたけれど、本を買うのは難しそう。読書願望はものすごく強いとわかりますけどね。

E: 私は本屋さんも図書館も好きなんですけど、長く居ると酔いそうになるというか、本の洪水に飲み込まれそうな気分になって疲れます。だからリベロの店の雰囲気やエシエンのように店主のリベロが選んでくれた本を読みすすむのは羨ましかった。

U: リベロが本を選んで貸して感想を聴く。ニコラは貸し本に懐疑的だったけど、エシエンは次々と読破してリベロも楽しそうで、ふたりは本好きの友達になってましたよね。

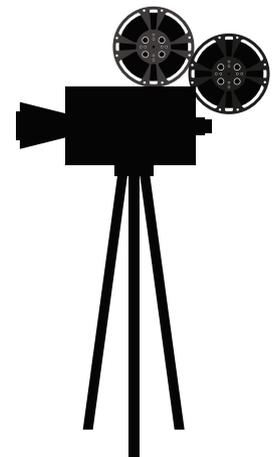
E: おじいさんと孫、師と弟子、店主と客とか、いろんな関係にも見えるけど、年齢や国籍の違いを超えて、伝えつなげたい思いと旺盛な知的好奇心がピタッとはまってましたよ。

児童書やコミック、長編小説まで、次々と読み進むエシエンは本に取り憑かれたような、乾いた大地に水が染み込むような、目の輝きもすごかったです。

U: そして最後に渡された本は、原題の「私は幸せになる権利がある」につながるんですね。ユニセフが共同制作しているこの作品にはこどもに届けたいメッセージがたくさん詰まっていました。

E: もちろんおとなにも。映画もそうですけど、本は世界を広げてくれて、語り合うことで理解や解釈が深まって、おもしろいですよね。リベロが選んだブックリストを同じように読みたいと一瞬思いましたが、かなり時間がかかりそうです(汗)。

U: 美しい風景に囲まれて、ニコラのカフェで、ブックリストの感想をゆっくり語り合う、と私たちの世界も広がりました。



勝手にきまってる

80

< 私の精神病の歴史 >

海田 若菜

自死をしようとして両親に助けられた翌日、私は家の近くにある違う精神科病院に行きました。

そこで私は「精神科病院に入院したい」と医師に言いました。このままでは本当に自死してしまうから、どうか精神が安定するまで入院するしか方法がないのでは、と考えたからでした。医師は「精神科病院への入院は過酷なものです。海田さんには耐えられないかもしれません。でも希死念慮があるなら、入院は必要だと思うので良い病院を紹介しましょう」と、大阪府にあるとある総合病院の脳神経内科を紹介して下さいました。

その病院は脳神経内科として病棟があり、持ち物検査や隔離がなく、一般的な病棟と同じように入院生活が送れる病院でした。

しかし、その病院に転院するには通っていた精神科クリニックの紹介状が必要でした。

母が精神科クリニックに事情を電話で伝えて、紹介状を書いてもらいたいと頼んだのですが、

主治医は私が自死を図ろうとしたことを聞くと「親なのだから、子どものことぐらいちゃんと見れないのか」と怒鳴ったそうです。主治医が母に怒鳴ったことは私は何年も後になってから母に聞きました。

最初は親身になるフリをしておいて、打つ手が無くなったら患者を突き放し、それで自死を図ろうとした患者の家族を怒鳴りつける。。。私にはその医師の言動が理解できません。

その病院は今もあるようでネットの口コミも悪くないようです。私はその病院をここで暴露したい訳ではありません。ただ、身勝手な医師によって精神病患者が症状が悪化したり、病院に行けなくなるケースをよく見聞きします。それらは医師の権限を用いた患者への冒涇であり、病気の人を治すという医者本来の役割と逆行するものだと私は思います。

ひゅーまん フェスタ 2024



5F
レセプションホール

こどものためのプレイパーク
遊びながらこどもの権利を学ぼう！

映画上映会「ヒゲの校長」
上映後ろう者によるトークあり
●18:00～



劇団どろっぷ「里の風ホテル」●13:30～14:30

4F

各コーナー
参加体験無料
景品付き
クイズラリー



ひゅーまんフェスタの
マスコットキャラクター
ひゅーペン

会議室 1：じんけん作品展示会

会議室 2：ポッチャで遊ぼう！！～盲導犬ウエンディも来るよ！！～（※15時まで）

会議室 3：世界各地の楽器に触れてみよう！

回廊ギャラリー：団体パネル展示

研修室：出かけてみよう！笑顔あふれるつどいの広場



会議室 1：平和って何？～一人ひとりの平和のかたち～

回廊ギャラリー：教えて！あなたの
「あんしん」「じしん」「じゆう」

研修室：サークルズおとなセミナー
『人との交流安全～7つの色を知って、
考える「わたし」の人権とバウンダリー～』
●18:00～19:30
要申込：CAP プロジェクトやお（capyao1996@gmail.com）
までご連絡ください。当日参加もOKです

3F
展示室

ディスコンで楽しく遊ぼう！障がい者と共に（※15時まで） / 作業所の自主製品の展示・販売（※15時まで） / 識字・日本語教室作品展示会 / かけはしになりたい展2024～みんなの笑顔が大好き～ / みんなで楽しくはたらくために / ヘルプマーク等の展示 / 平和について考えよう～八尾市の取り組みを通して～ / いつでも気軽に「すみれ」♪ / 広がれ！ピンクシャツの輪～いじめをなくすために私たちにできること～ / 人権の歴史と差別意識の課題

「こんにちは高齢者あんしんセンターです」
～高齢者の人権と認知症について知ろう～

外国にルーツのあるこどもたちとその仲間たちが
発表します。応援よろしくお祈いします！

2F
大ホール



第43回 民族文化フェスティバル
「ウリカラゲモイム」
●10:20～12:30 ●13:40～15:40

1F
光のプラザ

みんなの心をつなごう！「さをり織り」体験 / 小枝でクラフトづくり

ヒップホップダンス発表 ●15:15～15:30
和太鼓の演舞 ●15:30～ / プラバン作り

B2F
小ホール

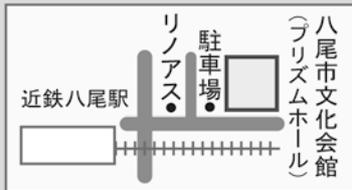
第47回 みんなのしあわせを築く八尾市民集会
講演タイトル：地上に平和を人に笑顔を
～笑いは世界の共通語～
講師：笑福亭鶴笑さん
日時：11月15日（金） 14時開始（開場：13時半）
対象：八尾市在住・在勤・在学の方
（一時保育申込期間：10/8～10/25）

参加無料
当日先着順
（定員300名）

11/15（金）16（土）
開催時間 **10時～16時**（※一部除く）
場所 **八尾市文化会館**（プリズムホール）

市民集会受付：本人通知制度の啓発について

一時保育あり 手話通訳あり 要約筆記あり



【一時保育申込み】
受付：人権政策課
申込み期限：11/1（金）まで
対象児童：1歳～小学4年生
料金：1人め500円、2人め250円、3人め～無料

【共催（連絡先）】
八尾市（人権政策課 072-924-3830）
八尾市教育委員会（人権教育課 072-924-9854）
世界人権宣言八尾市実行委員会（072-924-9853）
【協賛】八尾市企業人権協議会